

科目名	基礎演習		科目ナンバリング	N-LA G0 0-23. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N10011		30時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	高田まり子 田中真実 宇田宗弘 菅原大輔 小野綾 斎藤史恵 阿部智美 ※下線教員グループワーク担当			授業 形態	演習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 初年次教育の位置づけで大学生としての学習態度・自律的な学習能力の修得を目的とする。1名の教員が6名程度を担当する。小グループ演習の、学生参加型学習である。前半は共通課題を学修する。後半は個々の学生が興味・関心のあるテーマを決定し、調べ、分析しながらそのプロセス・成果をレポートにまとめ、パワーポイントを作成し発表する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 4-2, 5-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 学生生活や学習習慣などの自己管理能力を身につけることができる。 2. 大学という場を理解できる。 3. 人として守るべき規範を理解し行動できる。 4. 大学の中で人間関係を構築できる。 5. 大学で学ぶための思考方法を理解でき、スタディスキルを修得できる。 6. 能動的で自立・自律的な学習への転換ができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	大学における学びとは		キャリアデザイン（看護観・倫理観の育成）の実現を目指そう！						高田	
第2回	大学における学びとは		”振り返り”により考える力を育てよう！学習ポートフォリオの展開方法を理解しよう！						高田	
第3回	大学生のためのスタディスキル (1) ノートの取り方/資料整理/ レポート作成		学びを深めるノートの取り方・資料整理法を身につけよう！						高田	
第4回	大学生のためのスタディスキル (2) レポート作成、入学前レポートの 振り返り		入学前課題の振り返り後“いいね！”がつくレポートにチャレンジしよう！						高田	
第5回	大学生のためのスタディスキル (3) 図書館の探検		図書館を探検して身近な学修施設として活用しよう！						阿部	
第6回	演習(1) テーマの決定・資料収集・要約		各自の興味・関心のあるテーマを決定し、調べ、まとめる。						個人演習	
第7回	演習(2) テーマの決定・資料収集・要約		各自の興味・関心のあるテーマを決定し、調べ、まとめる。						個人演習	
第8回	演習(3) 要約した内容の発表		要約した内容を発表し、要約の仕方や内容をディスカッションする。※司会・書記学生担当						グループ演習 ディスカッション	
第9回	演習(4) レポートの作成		テーマについて収集した資料をもとに、各自がレポート作成を行う。						個人演習 ルーブリック	
第10回	演習(5) レポートの作成		テーマについて収集した資料をもとに、各自がレポート作成を行う。						個人演習 ルーブリック	
第11回	演習(6) レポートの作成		テーマについて収集した資料をもとに、各自がレポート作成を行う。						個人演習 ルーブリック	
第12回	演習(7) レポートの評価		各自が作成したレポートの、自己・教員評価を行う。学習オートフォリオの評価をしよう！						個別面談指導	
第13回	演習(8) パワーポイントの作成		テーマについて分析したプロセスや成果のパワーポイントを作成する。						個人演習	
第14回	演習(9) パワーポイントの作成		テーマについて分析したプロセスや成果のパワーポイントを作成する。						個人演習	
第15回	演習(10) パワーポイントでの発表		テーマについて分析したプロセスや成果をパワーポイントを用いて発表し、ディスカッションを行う。学習ポートフォリオのまとめしよう！ ※司会・書記学生担当						グループ演習 ディスカッション	
授業方法(方法、手段、ツール等)	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	資料記入	授業中のノート取り	リフレクションシート	まとめアクティビティ			
評価方法及び評価基準	<p>1. 入学前に提出された課題は、ルーブリックで自己評価し基礎演習で活用する。 2. 2/3以上の出席日数、学習への参加状況、レポート、発表などを総合的に判断する。 3. 評価の割合は、個人レポート60%、参加状況20%、パワーポイント・発表20%とする。 ※第15回基礎演習の学びに関する自己評価記入。</p>									
課題等	<p>※個人レポート提出日は担当教員が提示する。レポートは、A4用紙2枚(40×40)程度とする。 レポートの指導は原則、第11～12回で実施する。</p>									
事前事後学修	<p>・授業で紹介する参考図書は、積極的に読むこと。</p>									
教材教科書参考書	<p>・授業の中で、随時、参考図書を紹介する。</p>									
留意点	<p>1. 授業で紹介された文苑等の自己学習による積み重ねが重要である。 2. 授業で学んだことを、日頃の学習に活かすことが大切である。 3. スタディスキルを修得し、自己管理能力を身につけることがポイントである。</p>									

科目名	キリスト教概論		科目ナンバリング	N-LA HC 0-00. H N		単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N11001			30時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	石垣 雅子				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>キリスト教主義学校に学ぶ者として、キリスト教や宗教についての基本的知識を得ることを第一の目的とする。また、実際に聖書に触れ、読み、考えることを通して看護を学ぶ上での一助としたい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>										
到達目標	<p>1. キリスト教や宗教について必要と思われる知識を得る。</p> <p>2. キリスト教的観点から物事を見、自己の価値観と視野の広がりを目指す。</p> <p>3. 聖書が語るメッセージから自分や社会を見つめ、更に看護を学ぶ上で大事な倫理観を得る。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備 考	
第1回	学ぶ上で必要なこと		キリスト教や聖書、宗教についての基本的知識、カルトの危険								
第2回	弘前学院の歴史		弘前とキリスト教、本学の創立と歩み、キリスト教主義学校とは								
第3回	キリスト教の歴史		キリスト教の歴史概説、ユダヤ教とイスラームとの関係含めて								
第4回	看護とキリスト教		看護を学ぶ上で大事だと思われるキリスト教的な観点								
第5回	旧約聖書概説		旧約聖書の成立、ユダヤ教徒の関連、39巻のダイジェスト説明								
第6回	旧約聖書を読んでみる (1)		創世記が伝えようとしているもの								
第7回	旧約聖書を読んでみる (2)		出エジプト記とモーセの活動、十戒と律法								
第8回	旧約聖書を読んでみる (3)		イスラエル民族の苦難の歴史、サムエル記と列王記を中心に								
第9回	旧約聖書を読んでみる (4)		預言書、知恵文学、諸書								
第10回	新約聖書概説		新約聖書の成立、イエス・キリストとは、27巻のダイジェスト解説							レポート提出	
第11回	新約聖書を読んでみる (1)		イエス誕生物語とクリスマスの意味								
第12回	新約聖書を読んでみる (2)		イエスの語るたとえ話、奇跡物語の意味								
第13回	新約聖書を読んでみる (3)		イエスの十字架刑、復活の出来事が語るもの								
第14回	新約聖書を読んでみる (4)		パウロ書簡とパウロの働き、初代教会の成立								
第15回	まとめと確認		まとめとふりかえり、確認小テスト							レポート提出	
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	誘導ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	クイズ、小テスト	授業中のノート取り						
評価方法及び評価基準	講義への出席と参加30%、レポート(二回)と小テスト50%、木曜日の礼拝出席20%で評価する。										
課題等	講義時に指示。										
事前事後学修	講義時に指示した次回の聖書テキストを必ず読んでから参加すること。事後学習としてやるべきことを指示した場合はそれに従うこと。人にもよるが、週あたり3時間程度要する。										
教材教科書参考書	『聖書 新共同訳』新共同訳で旧約聖書・新約聖書両方が入っているもの(入学時購入者は新共同訳である)。毎回プリントを配布する予定。ノートとプリントをとじるファイルを各自用意すること。										
留意点	場合によっては一回程度オンデマンド講義を行う場合がある。木曜10:20からの礼拝に参加すること。この講義及び礼拝、また本学のキリスト教教育は信仰を強制するものではない。										

科目名	キリスト教倫理		科目ナンバリング	N-LA HC 0-01. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N11002		30時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>キリスト教はわたしたち人間が他者とどのように人間関係を結ぶべきか示唆してくれる。聖書を読み考えることを通して自己と他者の望ましいあり方やこの社会についてについて考察してみたい。旧約聖書の創世記と新約聖書の福音書をテキストとする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. キリスト教的視点や価値観から自己と他者の望ましいあり方を考える。</p> <p>2. 聖書の中の様々な物語を通し、その示唆するものを読み取り、更に自分ならどうするかどうすべきか考える。</p> <p>3. 看護を学ぶ上で大切なことは何か聖書から考える。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	方法論とオリエンテーション		キリスト教や聖書の基礎的知識の確認、どのようなことを目指すのか							
第2回	創世記を読む (1)		イスラエル民族の歴史と天地創造物語 (創世記1: 1~2: 4)							
第3回	創世記を読む (2)		楽園喪失物語、失敗と新しい可能性 (創世記2: 4~3: 24)							
第4回	創世記を読む (3)		神は何故故意に悪をしたのか (創世記4: 1~26)							
第5回	創世記を読む (4)		言葉が通じ合わない世界だからこそ (創世記11: 1~9)							
第6回	創世記を読む (5)		人生は旅である (創世記12: 1~25: 26の中からピックアップ)						レポート提出	
第7回	福音書を読む (1)		イエス誕生物語の裏にあるもの (マタイ1: 18~2: 23 ルカ2: 1~20)							
第8回	福音書を読む (2)		放蕩息子をゆるす父親の姿 (ルカ15: 11~32)							
第9回	福音書を読む (3)		イエスの目指した社会福祉のあり方 (マタイ20: 1~16)							
第10回	福音書を読む (4)		あなたの持っているタラントとは (マタイ25: 14~30)							
第11回	福音書を読む (5)		職業選択の自由がある素晴らしさ (ルカ19: 1~10)							
第12回	福音書を読む (6)		愛とは実践することである (ルカ6: 27~36 ルカ10: 25~37)							
第13回	福音書を読む (7)		病といやし、奇跡の意味 (ヨハネ5: 1~18 マルコ2: 1~12)							
第14回	福音書を読む (8)		悪者を探しても解決しない (ヨハネ9: 1~12)						レポート提出	
第15回	まとめとふりかえり		今後の課題、講義のまとめとふりかえり							
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	誘導ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	資料記入	クイズ、小テスト	授業中のノート取り				
評価方法及び評価基準	<p>原則としてレポート50%(二回)、講義の出席と参加30%、木曜日の礼拝出席20%で評価する。</p> <p>レポートは創世記から一回、福音書から一回。A4サイズ一枚程度。ルーブリック使用の上、記述の適切さ、自分の考えや意見がきちんと述べられているかどうかを判断する。二回提出されない場合は不合格点となる。</p>									
課題等	講義時に指示。									
事前事後学修	講義前に予習として聖書テキストを丁寧に読んでおくことは必須。人にもよるが週3時間程度要する。									
教材教科書参考書	『聖書 新共同訳』新共同訳で旧約聖書・新約聖書両方が入っているもの。 毎回プリントを配布する予定。ノートとプリントをとじるファイルを各自用意すること。									
留意点	木曜日10: 20からの礼拝に参加すること。これにより欠席の多い者やレポートに自信のない者を救済する場合がある。									

科目名	哲学		科目ナンバリング	N-LA HC 0-02. S N	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N11009		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 現代のテーマである「生命」、「幸福」、「自由」、「格差」などの諸問題を通覧し、自分の生き方、社会のありかたに対して自覚的に反省する。また、授業の中で、自分の考えを口頭で発表する力、文章にする力を養うための練習も行う。なお、テーマによって漫画、アニメ、映画も利用する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	①広範な倫理問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになること。②他人の意見を理解し、それに対して問題点を指摘する能力を身につけること。③難解な文章を読む力をつけること。④映像を読み解く力をつけること。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		「ここは今から倫理です。」							
第2回	「嘘も方便」は正しいか？		カントの倫理学説（義務論）について							
第3回	サバイバル・ロタリー		生命倫理の問題、臓器移植は許されるか？							
第4回	「最大多数の最大幸福」		個人と社会のあり方を考える							
第5回	功利主義の基礎		功利主義とは？功利主義者の原典を読んでもみる							
第6回	幸福の計算		幸福とは何か、幸福へ至る道とは？							
第7回	人格概念		人格概念を検討する							
第8回	事実判断と価値判断		「である」と「べきである」の関係性について							
第9回	カントの定言命法		カントの倫理学説再説							
第10回	思いやりだけで道徳の原則ができるか？		道徳の原則とは何か？							
第11回	囚人のジレンマ		囚人にとって一番利益になる行為とは？							
第12回	施しは義務か？		貧者を援助しなければならないことの根拠							
第13回	正義は時代によって変わるか？		「格差」問題を考える							
第14回	科学は価値中立的吗？		科学技術の光と闇							
第15回	まとめ		授業全体のまとめ							
授業方法(わく、ディプロマポリシー、ア・ラーニング等)	PBL（問題解決型学習）		理解度チェック							
評価方法及び評価基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。									
課題等	ワークシート“atelier”は翌週に返却。									
事前事後学修	教科書の該当箇所を事前に一読し、内容を把握しておくこと。3時間程度の準備が必要。									
教材教科書参考書	『現代倫理学入門』（加藤尚武、講談社学術文庫、本体1067円、ISBN978-4061592674）									
留意点	毎週、ワークシート“atelier”を授業時間内に完成させ、提出する。									

科目名	人間関係論		科目ナンバリング	N-LA HC 0-05. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N15001		15時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	栗林理人 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本講義では“人間とは何か”という問い掛けについて、心の発達という視点から考えることを主題とする。そして、人間を包括的に理解する姿勢を持ち、誕生から死に至るまでの、心の発達の变化を主に扱う。発達に影響を及ぼす要因について理解を深め、発達段階の特徴や各発達課題に関する知識や考え方を学習する。最終的には、「人と向き合う」ということを学ぶことになる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2、カリキュラムポリシーの2-1に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人の発達を誕生から死までの一連の過程として捉え、発達の各段階の特徴や課題を学ぶ ・発達の要因（遺伝と環境）について学ぶ ・発達の各段階の特徴や課題を理解した上で、「人と向き合う」ということを身につける 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	生涯発達の視点		誕生から死に至るまでの心の発達の变化						集中講義のため、第1回、2回は連続	
第2回	発達の要因		発達の要因である遺伝と環境という視点／わが国における子育ての環境について考える（グループワーク）							
第3回	発達の各段階①		乳幼児期～児童期の発達：感覚・知覚、認知						集中講義のため、第3回、4回は連続	
第4回	発達の各段階②		乳幼児期～児童期の発達：アタッチメント理論とその実際／安心感・安全感を得る方法について考える（グループワーク・ディベート）							
第5回	発達の各段階③		児童期、学童期の発達について						集中講義のため、第5回、6回は連続	
第6回	発達の各段階④		思春期の発達について／適性検査を体験し、自分の理解を深める（資料記入）							
第7回	発達の各段階⑤		成人期の発達について						集中講義のため、第7回、8回は連続	
第8回	発達の各段階⑥		老年期の発達について／死や病名の告知について考える（クイズ、小テスト）							
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法 (オプティマ ド、アクティ ブ・ラーニン グ等)	グループワーク	ディベート	資料記入	クイズ、小テスト						
評価 方法 及び 評価 基準	平常点評価20%、最終レポート80%									
課題 等	授業内容に沿ったテーマでクイズ、小テストを行う。その結果および、授業中の態度等を総合して平常点評価とする。最終レポートでは、各授業の内容を踏まえたうえで、教員が提示した形式に沿って自分の考えを記載しているかを評価する。									
事前事後 学修	事後学修として、授業で配布された資料を用いて、十分に理解し把握できたかを確認し、適宜、教員の助言を受ける。									
教材 教科書 参考書	教員の作成した資料を用いる。									
留意 点	連絡先 E-mail: michito1@hirosaki-u.ac.jp									

科目名	ソーシャルスキル		科目ナンバリング	N-LA HC 0-06. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N15002		15時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	高田まり子 對馬明美 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 個人及びグループにおける社会意識の形成とコミュニケーション理論と基本的なスキルを修得する。看護場面における地域特有の方言によるコミュニケーションを理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1, 5-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. ソーシャルスキルの概念、子ども・一般成人に必要なソーシャルスキルについて理解する。 2. 接遇マナーから相手との良好な関係を築く方法を理解する。 3. 人の話を聞くスキルを学び、インタビューを通してその実際を修得する。 4. 看護場面における地域特有の方言によるコミュニケーションの実際を理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ソーシャルスキルの考え方		ソーシャルスキルの概念、子ども・一般成人に必要なソーシャルスキル						講義	
第2回	接遇マナーと人間関係		第一印象の向上、相手に届く話し方、心をつかむコミュニケーションについて考えてみよう！						講義 グループ演習	
第3回	実習場面での接遇		実習場面での接遇の実際を考えてみよう！						講義 DVD学修	
第4回	人の話を聞くスキル		聞くための非言語チャンネルの使用、欺瞞の非言語コミュニケーション						講義	
第5回	インタビューの方法(基礎編)		ポジティブな話題からのインタビューをロールプレイを通して学ぶ						グループワーク	
第6回	インタビューの方法(1)		インタビュー方法の実際(話し手と聞き手の体験)						ペアワーク 高田・對馬	
第7回	インタビューの方法(2)		インタビュー方法の実際(話し手と聞き手の体験)						ペアワーク 高田・對馬	
第8回	看護場面における方言によるコミュニケーション		看護場面における津軽弁によるコミュニケーションのDVDを視聴し、看護者としての関りを考えよう！						講義 DVD学修	
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	授業中のノート取り	発表、ポスター作成	リフレクションシート	理解度チェック			
評価方法及び評価基準	<p>1. 2/3以上の出席日数、学習への参加状況、レポート、リフレクションレポートなどにより総合的に判断する。 2. 第5回の演習レポート10点、第6回第7回の演習レポート40点、第1・2・3・4・8回のリフレクションレポートは各5点(25点)事後レポート25点</p>									
課題等	1. レポートは、判読可能なコピーを授業翌日の12:00までに1階のレポートボックスに提出すること。									
事前事後学修	1. 事後提出のレポートについては、授業初回に提示する。									
教材教科書参考書	授業の中で、随時紹介する。									
留意点	1. 演習後のレポートは、20分程度整理する時間をとるが、演習時のメモなどを参考に整理することを心がける。 事後の目安:30分									

科目名	憲法と法		科目ナンバリング	N-LA HC 0-07. S N	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N11003		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕									
	日本国憲法が規定する基本的人権の保障を学ぶ。まず、基本的人権の観念や歴史のほか基礎理論を学び、そのうえで、前期科目である「日本国憲法A」としては、各論として、包括的基本権、自由権、社会権等へと学びを進めていく。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連する。									
到達目標	日本国憲法が、近代以降の立憲政治の到達点であることをしっかりと理解し、そもそも基本的人権を保障するための仕組みとしての統治機構に関する深い知識を自己のものとするを旨とする。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	人権総論①		基本的人権とは							
第2回	人権総論②		基本的人権思想の歴史的展開①							
第3回	人権総論③		基本的人権思想の歴史的展開②						ディスカッション	
第4回	人権総論④		基本的人権の享有主体							
第5回	人権総論⑤		基本的人権の私人間効力							
第6回	人権総論⑥		特別の法律関係における基本的人権						ディスカッション	
第7回	人権総論⑦		基本的人権の限界と制約							
第8回	包括的基本権①		個人の尊重と幸福追求権							
第9回	包括的基本権②		幸福追求権の諸相							
第10回	包括的基本権③		法の下の平等							
第11回	包括的基本権④		家族生活と平等							
第12回	包括的基本権⑤		雇用関係と平等							
第13回	自由権①		思想及び良心の自由							
第14回	自由権②		信教の自由と政教分離						ディスカッション	
第15回	総括		まとめと振り返り						反転学習	
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	グループワーク	ディベート								
評価方法及び評価基準	学期末に行う筆記試験のみで評価する。試験の形式はいわゆる論文式とし、解答に際しては、資料の参照を許可する。他方で、評価に関しては、何よりも、出題の意図がしっかりと捉えられているか否か、そのうえで、基本的な概念や論理が適切に理解されているか否か、また、場合によっては、基礎的な概念等を現実の事例の解明に適切に応用できているか否かというように、総じて、論理性を重視した評価を行う。									
課題等	特に指定しない。									
事前事後学修	参考文献等を地道に参照すること。憲法等の条文をきちんと参照すること。目安：毎週3時間									
教材教科書参考書	特に指定しない。プリントを適宜配付する。									
留意点	憲法の条文をその場で参照できるように、準備をしておくこと。									

科目名	経済学		科目コード	N-LA HC 0-8. S N	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	N11004		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	福田 進治			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 近代以降のヨーロッパ経済の歴史と著名な経済学者（アダム・スミス、リカード、マルクス、マーシャル、ケインズ）の業績を学びながら、経済学の基本的な考え方を身に付けます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している</p>									
到達目標	経済学の歴史を学び、経済学の基本的な考え方を身に付けることを目指します。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	序 論			授業の目的、概要、方法について説明します。						
第2回	重商主義の時代			アダム・スミスの時代と生涯について学びます。						
第3回	市場メカニズム			アダム・スミスの価格理論と成長理論について学びます。						
第4回	小さな政府			アダム・スミスの経済政策と「小さな政府」について学びます						
第5回	産業革命の時代			リカードの時代と生涯について学びます。						
第6回	国際貿易の原理			リカードの比較生産費説について学びます。						
第7回	階級闘争の時代			マルクスの時代と生涯について学びます。						
第8回	資本主義の構造			マルクスの資本主義経済の構造的分析について学びます。						
第9回	資本主義の歴史			マルクスの資本主義経済の歴史的分析について学びます。						
第10回	ヴィクトリア時代			マーシャルの時代と生涯について学びます。						
第11回	市場経済の理論			マーシャルの需給均衡理論について学びます。						
第12回	大恐慌の時代			ケインズの時代と生涯について学びます。						
第13回	マクロ経済の分析			ケインズの雇用理論と貨幣理論について学びます。						
第14回	福祉国家の形成			ケインズの経済政策と福祉国家について学びます。						
第15回	まとめ			授業の内容を振り返り、経済学の歴史について考えます。						
授業方法(わく、ポイント、アクティビティ等)	授業中のノート取り									
評価方法及び評価基準	<p>1) 平常評価 (50%) : 毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2) 期末評価 (50%) : 期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>									
課題等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。									
事前事後学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返しなが、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。									
教材教科書参考書	(参考書) 八木紀一郎『経済思想』(第2版) 日本経済新聞出版社、2011年、ISBN: 9784532112431 ※品切中のため新品を入手することはできません。									
留意点										

科目名	社会学		科目ナンバリング	N-LA HC 0-09. S N		単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N11005			30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名					授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	【授業の主旨】 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの に関連し、カリキュラムポリシーの に関連している。										
到達目標											
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回											
第2回											
第3回											
第4回											
第5回											
第6回											
第7回											
第8回											
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
第13回											
第14回											
第15回											
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)											
評価方法及び評価基準											
課題等											
事前事後学修											
教材教科書参考書											
留意点											

科目名	歴史学		科目コード	N-LA HC 0-10. S N	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	N11006		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	斉藤 利男			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>「海を媒介とする交流と文明の世界史」という視点から、古代地中海世界の誕生、古代ギリシアと古代ローマ、ユーラシアの東西交流、イスラム帝国とアジアの大航海時代の順で、古代から中世初めの世界史の学習を行います。また映像教材も大いに活用します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達目標	他の専門科目や2年次以降の専門科目の学習に必要な世界史（「文明史」の視点からみた古代から中世のユーラシアの歴史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンスー王朝史から文明史・交流史へ、古代エジプト文明の実像を映像から学ぶ		映像教材を使いながら、本授業のねらいを説明します。						講義形式	
第2回	古代エジプト文明とナイル川・地中海世界		研究の発展をふまえた新たな視点からエジプト文明の実像を学ぶ						講義形式	
第3回	海洋民族フェニキア人		ギリシア人と並んで地中海の覇者となったフェニキア人について学ぶ						講義形式	
第4回	海洋民族ギリシア人とギリシア文明		古代エーゲ海世界とギリシア人の登場について学ぶ						講義形式	
第5回	古代ギリシアの発展と都市国家アテナイ 1		都市国家アテナイを中心に古代ギリシア社会の発展について学ぶ						講義形式	
第6回	古代ギリシアの発展と都市国家アテナイ 2		古代ギリシアの黄金時代と都市国家アテナイの繁栄について学ぶ						講義形式	
第7回	ローマ帝国とは、映像から学ぶ		映像からローマ帝国の政治・軍事システムと生活・文化を学ぶ、ミニレポートは前半の総括						講義形式	
第8回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 1		ローマ帝国誕生の前史を学ぶ						講義形式	
第9回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 2		都市国家から海洋国家へのローマの発展について学ぶ						講義形式	
第10回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 3		「地中海帝国」としてのローマ帝国の誕生について学ぶ						講義形式	
第11回	シルクロードとユーラシアの海の道		ローマ帝国時代のユーラシア東西交流の実像を学ぶ						講義形式	
第12回	イスラム帝国とアジアの大航海時代		イスラム帝国の登場とアジアの大航海時代の開始について学ぶ						講義形式	
第13回	イスラム帝国とイスラム文化		「イスラムとは何か」を学び、イスラムに対する誤解を正す						講義形式	
第14回	「海のシルクロード」の誕生ーアジアの大航海時代 1		アジアの第1次大航海時代と「海のシルクロード」について学ぶ						講義形式	
第15回	「海のシルクロード」の誕生ーアジアの大航海時代 2		「海のシルクロード」の発展とアジアの第2次大航海時代について学ぶ						講義形式	
授業方法(わくわく学び、アクティブラーニング等)	PBL(問題解決型学習)		理解度チェック		学生から出された質問に対しては、全員で考える機会として活用し、教師側からの再質問も交えながら双方向的授業を行います。					
評価方法及び評価基準	<p>毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい(15回×2点=30点, 30%)、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います(70点, 70%)。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価(合計100点, 100%)とします。</p>									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し(質問には回答を行います)、授業内容に反映させます。									
事前事後学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて、再確認したり、考える機会として下さい。時間はあわせて3時間程度が理想です。									
教材教科書参考書	当方作成の講義テキスト(地図・写真・資料つき)を教科書に代わる教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。基本的な事項に対する問いも含め、講義内容に対する質問を大いに歓迎します。									

科目名	教育学		科目ナンバリング	N-LA HC 0-11. S N	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N11007		30時間				
区分	教養科目	選択	担当名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本授業では、「生涯学習」に関する歴史や制度の基礎について担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、代表者が前に出て発表する。そして各自が気づいたことを文章化することを通して、「生涯学習」についての理解を深めていくことを目指す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 生涯学習とは何かについて、歴史的背景を踏まえながら自分の言葉で説明できる。</p> <p>2) 生涯学習に関して、現在どのようなことが問題となっているのか自分の言葉で説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		<ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明 ・ 生涯学習とは何か 							
第2回	生涯学習の基礎 (1)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯教育と生涯学習 							
第3回	生涯学習の基礎 (2)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習の法制と行政 							
第4回	生涯学習の基礎 (3)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習施設 							
第5回	生涯学習の基礎 (4)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習の方法 							
第6回	生涯学習の基礎 (5)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の生涯学習 							
第7回	生涯学習の基礎 (6)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習としてのスポーツ 							
第8回	地域における生涯学習 (1)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域文化の継承 							
第9回	地域における生涯学習 (2)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域防災教育 							
第10回	生涯学習と学校教育 (1)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 貧困・格差社会と学校教育 							
第11回	生涯学習と学校教育 (2)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 刑務所の中の学校 							
第12回	生涯学習と学校教育 (3)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者支援と居場所づくり 							
第13回	生涯学習と学校教育 (4)		<ul style="list-style-type: none"> ・ インクルーシブ教育 							
第14回	生涯学習と学校教育 (5)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様性の包摂 							
第15回	まとめ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業全体の総括 							
授業方法(グループワーク等)	グループワーク	まとめアクティビティ	ディベート	発表、ポスター作成	リフレクションシート					
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への取り組み(グループワーク、振り返り) : 50% ・ まとめレポート : 50% 									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・ 振り返りはteamsを通じて提出する。 									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・ 事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書は特に指定しない。毎回授業レジュメを配布し、参考書等を適宜紹介する。 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画はあくまで予定である。参加学生の興味関心等に応じて授業内容が変わることがある。 									

科目名	青年期のメンタルヘルス		科目ナンバリング	N-LA HC 0-32. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N11015		15時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	高橋 恵子				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>心理療法、カウンセリング論からみた青年期のメンタルヘルスについて考えます。ストレスと健康、心と体のつながり、心身相関などの基礎知識を学び、心と体をしなやかに保つリラクゼーション、受講者相互のペアワーク、対話と傾聴を通じて自己理解と他者理解を深めます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシー 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの2-2, 3-2, 4-1に関連する。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間理解に役立つ心の健康に関する基礎知識を学びます ・ 心身相関の気づきを促し、心とからだの健康を育みます ・ 自らの心と体、他者との対話を通じて自己洞察、相互理解を深めます 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ストレスと健康 (1)		精神的健康、mental well-beingとは							
第2回	ストレスと健康 (2)		ストレスと心身相関について						【持ち物】付箋 (15mm×50mm位) 20枚程度	
第3回	身体との対話(1)		リラクゼーション・ワーク① －姿勢と呼吸を整える－ ホームワーク						体験学修 エクササイズ	
第4回	身体との対話(2)		リラクゼーション・ワーク② －筋弛緩法・自律訓練法の実践－ ホームワーク						【持ち物】色鉛筆	
第5回	心の理解 (1)		交流分析とエゴグラム実習 レポート						体験学修 エクササイズ	
第6回	心の理解 (2)		自我状態と認知のバランス						体験学修 エクササイズ	
第7回	自己理解と他者理解 (1)		心の栄養とは、人生の基本的構え						【持ち物】 付箋ミニ (15mm×50mm位)	
第8回	自己理解と他者理解 (2)		理解からの共感、対話と傾聴						ペアワーク	
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法 (オデマ ド、アク ティブ・ ラーニ ング等)	ペアワーク	グループワーク	授業中のノート取り	リフレクションシート	理解度チェック					
評価 方法 及び 評価 基準	<p>平常点：授業時のリフレクションペーパー、ホームワークの実施記録 (50点)</p> <p>レポート：授業で提示されるテーマについての理解度チェックテスト (50点)</p>									
課題 等	ホームワーク、及びレポート (授業時に適宜指示します)									
事前 事後 学修	<p>事前学習：心身の健康に関する意識を高め、日頃より自身の課題に取り組むことを目指してください。</p> <p>事後学習：授業で学んだことを日常生活の中で実践し、得られた経験を振り返ることで、心の健康についての理解を深めましょう。</p>									
教材 教科書 参考書										
留意 点	講義と体験エクササイズを併行しながら進めます。ワークを楽しみながら、自己理解と相互理解を深めましょう。									

科目名	高齢社会と生涯学習		科目ナンバリング	N-LA HC 0-33. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N11016		15時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	越 村 康 英			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕									
	<p>本授業では、生涯学習・社会教育の基本概念を解説したうえで、「超高齢社会」「人生100年時代」における高齢者の学習活動とその支援について、理論的・実践的に探究する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシー2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの2-2, 3-2, 4-1に関連する。</p>									
到達目標	<p>①生涯学習・社会教育の基本概念について理解する。</p> <p>②「超高齢社会」「人生100年時代」の実相を把握し、新しい高齢者観を身に付ける。</p> <p>③高齢者の特性に応じた学習支援の在り方について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス 生涯学習とは何かー自己形成と学習			本授業（目的・内容・方法・評価）について説明する 生涯学習の基本概念について解説する						
第2回	社会教育とは何か			社会教育の基本概念について解説する						
第3回	「超高齢社会」「人生100年時代」における生涯学習の意義			高齢化率の推移（推計）等も確認しながら「超高齢社会」「人生100年時代」の実相を確認するとともに、そうした社会・時代における生涯学習の意義について掘り下げる ※インターネットに接続し、情報を収集しながら議論する						
第4回	「成人の学習」の特性とアンドラゴジー			アンドラゴジーの理論に着目しながら、「成人の学習」の特性をふまえた学習支援の在り方について考える						
第5回	「高齢者の学習」の特性とジェロゴジー			ジェロゴジーの理論に着目しながら、「高齢者の学習」の特性をふまえた学習支援の在り方について考える						
第6回	実践事例に学ぶ(1)ー地域における高齢者の学習活動			公民館における高齢者学級やサークル活動など、地域における高齢者の学習活動に着目し、その意義・可能性について考える。						
第7回	実践事例に学ぶ(2)ー超高齢社会の課題に向き合う社会教育実践			公民館における「認知症カフェ」、博物館と高齢者福祉施設が連携した「回想法」の取り組みなど、超高齢社会の課題に向き合う社会教育実践に着目し、その意義・可能性等について考える						
第8回	高齢者が自分らしく暮らし続けるためにー授業のまとめ			これまでの授業内容をふりかえり、「看護師としての仕事」にどのように活かすことができるのかを考える						
授業方法 (わかり 易い 方法 ・ ア ン ド ラ ゴ ジ ー 等)	リフレクシオンシート	ペアワーク	グループワーク							
評価方法 及び 評価 基準	原則毎回、授業内容を省察し、リフレクシオンシートの記入・提出を求めます。 また、適宜、ペアワーク・グループワークを取り入れながら授業を進めます。									
課題 等	次の2点より総合的に評価します。 (1)リフレクシオンシート 40% (2)期末レポート 60%									
事前事後 学修	授業時間の中で適宜指示します。									
教材 教科書 参考書	【事前学修】 地域の公民館等で実施されている高齢者事業について調べてください。 【事後学修】 レジュメ・資料を整理しながら授業内容の復習を行うとともに、授業の中で紹介する参考書等を読んで学習を深めるようにしてください。									
留意 点	【参考書】 堀薫夫編著『生涯発達と生涯学習（第2版）』ミネルヴァ書房、2018、978-4-623-08475-3 ※上記は購入必須の教科書ではなく、参考書です。その他の参考書については、授業の中で随時紹介します。									
	履修人数等に合せて授業計画を変更する場合があります。									

科目名	コミュニケーション論		科目ナンバリング	N-LA HC 0-34. S N		単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N11017			15時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	高田 まり子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 コミュニケーションの理論と、コミュニケーションの基本的知識と技術を学び、保健医療活動の基盤となる人間関係の成立について理解を深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1に関連している。</p>										
到達目標	1. コミュニケーションの基礎的知識と技術について理解する。 2. 演習を通して、様々なコミュニケーションスキルの実践を修得する。 3. ソーシャルスキルとしてのアサーションの知識・態度を理解する。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	授業ガイダンス コミュニケーションの基礎知識		コミュニケーションの概念、コミュニケーションのプロセス 言語的・非言語的コミュニケーションについて理解する						講義 ペアワーク		
第2回	コミュニケーションの基礎知識		コミュニケーションの目的、コミュニケーションの阻害要因 コミュニケーションに必要な能力・態度について理解する						講義		
第3回	コミュニケーションの技法(1)		演習を通して、自分を主張するスキルを修得しよう！						講義 グループワーク		
第4回	コミュニケーションの技法(2)		演習を通して、対人葛藤に対処するスキルを修得しよう！						講義 グループワーク		
第5回	コミュニケーションの技法(3)		ソーシャルスキルを測る(他者評定・自己評定)						講義 グループワーク		
第6回	ソーシャルスキルとしてのアサーション:アサーション入門		アサーションの重要性、アサーションに必要な知識・態度						講義		
第7回	アサーショントレーニングの実際		看護場面におけるアサーションの実践をイメージしよう！						講義 グループワーク		
第8回	まとめ		授業内容を振り返り、自己のコミュニケーションの評価と課題を考える						個人演習		
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
第13回											
第14回											
第15回											
授業方法(オンライン等)	グループワーク	ペアワーク	授業中のノート取り	リフレクションシート	資料記入	まとめアクティビティ					
評価方法及び評価基準	1. 2/3以上の出席日数、学習への参加状況、レポート、リフレクションレポートなどにより総合的に判断する。 2. 第3・4・5・7回の演習レポート各15点(60点)、第1・2・6回のリフレクションレポートは各5点(15点)第8回事後レポート25点										
課題等	1. レポートは、判読可能なコピーを授業翌日の12:00までに1階のレポートボックスに提出すること。										
事前事後学修	1. 事後提出のレポートについては、授業初回に提示する。										
教材教科書参考書	授業の中で、随時紹介する。										
留意点	1. 演習後のレポートは、20分程度整理する時間をとるが、演習時のメモなどを参考に整理することを心がける。 事後の目安:30分										

科目名	英語 I A		科目ナンバリング	N-LA HL 0-12. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N12007		30時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	ヒューゴソン アルヴァル			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕									
	英語の基本的な文法と語彙を、読む・書く・話す・聞くのすべての能力が上がるように学んでいく。基本的な日常会話に触れることにより、英語のコミュニケーションに必要な知識を増やしていき、読解だけでなく実用的な側面にも役立つような英語能力を身につける。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1および5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 5-1に関連している。									
到達目標	高校までに学んだ基本的な文法や単語を確認したら、実際の場面ではどのように使われるかをテキストの会話やリスニングでインプットしていき、日常英語に慣れることを身につける。さらに、このようにインプットしたものを復習した文法・語彙を用いて、そのあとのリーディングやライティングで読解力や作文能力をできる限り上達することを学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	コース目的などの説明			コース概要、目標、評価、教科書などの説明						
第2回	Unit 1: Hello!			自己紹介の復習						
第3回	Unit 2: Your world			他人についてリーディングとリスニングを学び練習する						
第4回	Unit 3: All about you			仕事について会話を学び練習する						
第5回	Unit 3			個人情報について会話を学び練習する						
第6回	Unit 4: Family and friends			家族について会話を学び練習する						
第7回	Unit 4			友達について会話を学び練習する						
第8回	レビューユニット1～4			レビューと上達チェック（ユニット1～4）						
第9回	Unit 5: The way I live			スポーツ、食べ物、飲み物について会話を学び練習する					オンデマンド授業	
第10回	Unit 5			人と会ったときについて会話を学び練習する					オンデマンド授業	
第11回	Unit 6: Every day			時間を尋ねることについて会話を学び練習する						
第12回	Unit 6			日常生活ことについて会話を学び練習する						
第13回	Unit 7: My favorites			旅について会話を学び練習する						
第14回	Unit 7			注文、買い物などについて会話を学び練習する						
第15回	レビューユニット1～7			レビューと上達チェック（ユニット1～7）						
授業方法 (オンデマンド、アクティ ブ・ラーニン グ等)	グループワーク	ペアワーク	クイズ、小テスト							
評価方法 及び 評価 基準	出席が3分の2に満たないと評価の対象となりません。 期末試験の他、少なくとも一回の小テストを行います。例文などの小テストもあります。 授業への参加度や協力度も評価の対象になります。 評価に占める割合が高い方から、期末試験(6割)、小テスト(2割)、宿題および課題と授業への参加度・協力度(2割)、となります。									
課題 等	授業で行った範囲のWorkbookアクティビティを次回までやってください。									
事前事後 学修	授業の後は理解できないところがないよう必ず復習しておくこと。とくに期末試験までにわからないところを解決しておいてください。									
教材 教科書 参考書	American Headway Level Starter Student book ISBN 978-0-19-472542-2 American Headway Level Starter Workbook ISBN 978-0-19-472546-0									
留意 点	授業中に退室する場合は必ず許可を取ること。 許可なくスマートフォンを使用した場合は、使用目的にかかわらず評価の対象から外れます。同様に授業の進行の妨げとなる事由については、評価の大幅な減点となったり評価の対象から外れることになるので、単位を取得しようとする者は十分注意されたい。									

科目名	英語 IB		科目ナンバリング	N-LA HL 0-13.H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N12008		30時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	ヒューゴソン アルヴァル				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	〔授業の主旨〕									
	英語の基本的な文法と語彙を、読む・書く・話す・聞くのすべての能力が上がるように学んでいく。基本的な日常会話に触れることにより、英語のコミュニケーションに必要な知識を増やしていき、読解だけでなく実用的な側面にも役立つような英語能力を身につける。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1および5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1,5-1に関連している。									
到達目標	高校までに学んだ基本的な文法や単語を確認したら、実際の場面ではどのように使われるかをテキストの会話やリスニングでインプットしていき、日常英語に慣れることを身につける。さらに、このようにインプットしたものや復習した文法・語彙を用いて、そのあとのリーディングやライティングで読解力や作文能力をできる限り上達することを学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	レビュー			Unit 1-6の復習						
第2回	Unit 8: Where I live			場所案内について会話を学び練習する						
第3回	Unit 8			故郷について会話を学び練習する						
第4回	Unit 9: Times past			イベントについて会話を学び練習する						
第5回	Unit 9			バケーションについて会話を学び練習する						
第6回	Unit 10: We had a great time!			過去の出来事について会話を学び練習する						
第7回	Unit 10			週末の過ごし方について会話を学び練習する						
第8回	レビューユニット8～10			レビューと上達チェック(ユニット8～10)						
第9回	Unit 11: I can do that!			能力、スキルについて会話を学び練習する						
第10回	Unit 11			日常トラブルについて会話を学び練習する						
第11回	Unit 12: Please and thank you			買い物、レストランなどについて会話を学び練習する						
第12回	Unit 12			パーティでの会話を学び練習する						
第13回	Unit 13: Here and now			色、服などについて会話を学び練習する						
第14回	Unit 13			時間の過ごし方などについて会話を学び練習する						
第15回	レビューユニット8～13			レビューと上達チェック(ユニット8～13)						
授業方法 (オプショナル、アクティ ブ・ラーニン グ等)	ペアワーク	グループワーク	クイズ、小テスト							
評価 方法 及び 評価 基準	出席が3分の2に満たないと評価の対象となりません。 期末試験の他、少なくとも一回の小テストを行います。例文などの小テストもあります。 授業への参加度や協力度も評価の対象になります。 評価に占める割合が高い方から、期末試験(6割)、小テスト(2割)、宿題および課題と授業への参加度・協力度(2割)、となります。									
課題 等	授業で行った範囲のWorkbookアクティビティを次回までやってください。									
事前事後 学修	授業の後は理解できないところがないよう必ず復習しておくこと。とくに期末試験までにわからないところを解決しておいてください。									
教材 教科書 参考書	American Headway Level Starter Student book ISBN 978-0-19-472542-2 American Headway Level Starter Workbook ISBN 978-0-19-472546-0									
留意 点	授業中に退室する場合は必ず許可を取ること。 許可なくスマートフォンを使用した場合は、使用目的にかかわらず評価の対象から外れます。同様に授業の進行の妨げとなる事由については、評価の大幅な減点となったり評価の対象から外れることになるので、単位を取得しようとする者は十分注意されたい。									

科目名	英語Ⅱ		科目ナンバリング	N-LA HL 0-14. S N		単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目コード	N12003			60時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	ヒューゴソン アルヴァル				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>基本的なヒヤリング、スピーキング、ライティングの学習。さらに会話能力の向上も目指します。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1および5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1.5-1に関連している。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1および5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1.5-1に関連している。</p>										
到達目標	英語の能力をのばすと同時に、日本語と英語を話す国との間に存在する文化的な違いを理解することを目標とします。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	コース目的などの説明	コース概要、目標、評価、教科書などの説明				第16回	レビュー	Unit 1-6の復習			
第2回	Unit 1: You and me	自己紹介の復習				第17回	Unit 7: Dates to remember	歴史について会話を学び練習する			
第3回	“	“				第18回	“	“			
第4回	Unit 2: A good job!	仕事について会話を学び練習する				第19回	Unit 8: Eat in or out?	食べ物について会話を学び練習する			
第5回	“	“				第20回	“	“			
第6回	Unit 3: Work hard, play hard!	休暇について会話を学び練習する				第21回	Unit 9: City living	都会住まいについて会話を学び練習する			
第7回	“	“				第22回	“	“			
第8回	Unit 4: Somewhere to live	住まいについて会話を学び練習する				第23回	Unit 10: Where on earth are you?	人の説明について会話を学び練習する			
第9回	“	“				第24回	“	“			
第10回	Unit 5: Super me!	できることについて会話を学び練習する				第25回	Unit 11: Going far	旅について会話を学び練習する			
第11回	“	“				第26回	“	“			
第12回	Unit 6: Life's ups and down	過去について会話を学び練習する				第27回	Unit 12: Never ever!	経験について会話を学び練習する			
第13回	“	“				第28回	“	“			
第14回	まとめ	前期に学んだことのまとめ				第29回	まとめ	後期に学んだことのまとめ			
第15回	まとめ	前期授業の総括				第30回	まとめ	後期授業の総括			
授業方法 (オデマンド、アクティブラーニング等)	ペアワーク	グループワーク	クイズ、小テスト	発表、ポスター作成							
評価方法及び評価基準	評価に占める割合が高い方から、期末試験(6割)、宿題および課題と授業への参加度・協力度・積極性(4割)、となります。										
課題等	授業で行った範囲のWorkbookアクティビティを次回までやってください。										
事前事後学修	授業の後は理解できないところがないよう必ず復習しておくこと。とくに期末試験までにわからないところを解決しておくこと。										
教材教科書参考書	American Headway Level 1 Student book ISBN 978-0-19-472565-1 American Headway Level 1 Workbook ISBN 978-0-19-472569-9										
留意点	学生は授業をすべて英語で行うことを目指しましょう。										

科目名	医療英語		科目ナンバリング	N-LA HL 0-15. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N12004		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	田中 真実			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 東大病院発 医療スタッフのための英会話に付属しているCDをリスニングして、看護・医療に関連する英単語や英語表現を理解し学ぶ。また、映画（超字幕）を視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの3-2、4-1、5-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 外国人患者に対する、リスニング力を身につけることができる。 2. 映画（超字幕）を視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行うことができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション		ガイダンス。							
第2回	救急患者、患者さんと話す、映画（超字幕）視聴		緊急対応時の必須フレーズ、全職種対応・厳選フレーズ・映画（超字幕）を視聴しリスニングのスキルアップを行う。							
第3回	職種別シーン マニュアルⅠ、映画（超字幕）視聴		総合案内窓口、外来電話予約・映画（超字幕）を視聴しリスニングのスキルアップを行う。							
第4回	職種別シーン マニュアルⅡ、映画（超字幕）視聴		外来窓口、入院窓口（入院手続き案内）での会話・映画（超字幕）を視聴しリスニングのスキルアップを行う。							
第5回	職種別シーン マニュアルⅢ、映画（超字幕）視聴		入院窓口（入院時）、入院窓口（退院時）での会話を・映画（超字幕）を視聴しリスニングのスキルアップを行う。							
第6回	看護師Ⅰ、映画（超字幕）視聴		検診窓口・映画（超字幕）を視聴しリスニングのスキルアップを行う。							
第7回	看護師Ⅱ、映画（超字幕）視聴		外来（問診）外来（注射処置）・映画（超字幕）を視聴しリスニングのスキルアップを行う。							
第8回	看護師Ⅲ、映画（超字幕）視聴		外来（呼吸訓練）、入院（入院時案内等）・映画（超字幕）を視聴しリスニングのスキルアップを行う。							
第9回	看護師Ⅳ、映画（超字幕）視聴		入院（入院中の会話）、入院（退院時案内）・映画（超字幕）を視聴しリスニングのスキルアップを行う。							
第10回	看護師Ⅴ、映画（超字幕）視聴		手術（術前訪問）・映画（超字幕）を視聴しリスニングのスキルアップを行う。							
第11回	看護師Ⅵ、映画（超字幕）視聴		手術（入室・退室）・映画（超字幕）を視聴しリスニングのスキルアップを行う。							
第12回	薬剤師、映画（超字幕）視聴		お薬窓口、持参薬確認を・映画（超字幕）を視聴しリスニングのスキルアップを行う。							
第13回	臨床検査技師、映画（超字幕）視聴		採血・心電図・呼吸機能検査・腹部エコー・映画（超字幕）を視聴しリスニングのスキルアップを行う。							
第14回	診療放射線技師、映画（超字幕）視聴		胸部撮影等・映画（超字幕）を視聴しリスニングのスキルアップを行う。							
第15回	リハビリテーション・療法士、映画（超字幕）視聴		理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、レポート課題・映画（超字幕）を視聴しリスニングのスキルアップを行う。							
授業方法(ゼミ、演習、PBL、グループワーク、ディスカッション等)	ジグソー・リーディング									
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席につき、課題レポートによる評価(100%)、60%(60点)以上を合格とします。到達目標をどの程度達成されているのかをみる。									
課題等	レポート課題はTeamsで提出する。									
事前事後学修	事前学修(30分)：講義概要および授業全体の流れを確認しておく、事後学修(60分)：授業の内容を振り返り、学修ポイントを復習する。									
教材教科書参考書	講義時に必要なプリントを配布します。 参考書：東大病院発 医療スタッフのための英会話(ベレ出版) ISBN:978-4-86064-475-8、現場ですぐに役立つ! 看護・医療スタッフの英語(CD付)(朝日出版社) ISBN:978-4-255-00452-5									
留意点	普段から看護・医療に関連した英語について興味をもつこと。									

科目名	ドイツ語 A		科目ナンバリング	N-LA HL 0-16.S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N12006		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	田中 寿子			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ドイツ語圏の文化を知り、ドイツ語でコミュニケーションする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>① ドイツ語で挨拶ができる。</p> <p>② ドイツ語で自己紹介や簡単なコミュニケーションができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	0課 発音の基礎(1)		挨拶表現を使って、ドイツ語のつづりと発音の関係を学ぶ(1)							
第2回	0課 発音の基礎(2)		挨拶表現を使って、ドイツ語のつづりと発音の関係を学ぶ(2)							
第3回	1課 名前、住まい、出身、身分(1)		公的な場面で相手と話す・自己紹介する							
第4回	1課 名前、住まい、出身、身分(2)		親しい間柄の相手と話す・自己紹介する							
第5回	2課 簡単な質問に答える(1)		「はい」「いいえ」を使って答える							
第6回	2課 簡単な質問に答える(2)		「はい」「いいえ」を使わないで答える							
第7回	3課 買い物をする(1)		数詞を学ぶ。値段を尋ねる・答える。時刻(1)いま何時ですか？							
第8回	3課 買い物をする(2)		店に入って買い物をする							
第9回	4課 身の回りの物について話す(1)		身近な単語を会話に取り入れる(1)							
第10回	4課 身の回りの物について話す(2)		身近な単語を会話に取り入れる(2)							
第11回	5課 身近な人について話す		身近な人を話題に登場させる							
第12回	5課 電話をかける/友達を誘う		誘いかけの表現に慣れる							
第13回	6課 カフェで注文する		カフェで、何を注文するか友達と相談し、実際に注文する							
第14回	総復習(1~6課)		プリントを使って学習した内容を総復習							
第15回	まとめ(1~6課)		学習内容の総仕上げ							
授業方法(オンライン授業等)	<p>ロールプレイング</p> <p>場面設定しロールプレイングをおこない、ドイツ語表現を学びます。</p>									
評価方法及び評価基準	<p>・ 期末試験50%、授業への参加度50%で総合的に評価します。</p> <p>・ 授業への参加度を重視します。</p>									
課題等	各講義の終わりに、次回のための課題があれば連絡します。									
事前事後学修	学習したドイツ語表現を繰り返し発音して覚えましょう。									
教材教科書参考書	<p>教科書は「ドイツ語インフォメーション neu²」(朝日出版社) [ISBN978-4-255-25358-9]</p> <p>辞書には「やさしい!ドイツ語の学習辞典」(同学社) [ISBN978-4-8102-0005-8]を推薦します。</p>									
留意点	ドイツ語 Bと共通教科書を使い連携して理解を深めます。授業への参加度重視。積極的に授業に参加しましょう。									

科目名	ドイツ語B		科目ナンバリング	N-LA HL 0-16.S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N12005		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	田中 寿子			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 [キーワード：聞く、話す、書く]ドイツ語の基礎的な運用能力（聞く、話す、書く）を養う。 ドイツ語の学習をとおして、ドイツ人のものの考え方やドイツ文化の一端に触れる。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ごく簡単な日常会話ができる程度のドイツ語コミュニケーション能力の養成 ・基礎的なドイツ語文法の習得 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	つづりと発音 (1)		アルファベートと簡単な挨拶							
第2回	つづりと発音 (2)		母音と子音、数の読み方							
第3回	タナカマコトと申します (1)		1課：テキストとパートナー練習							
第4回	タナカマコトと申します (2)		1課：練習問題と演習							
第5回	何をしているの？ (1)		2課：テキストとパートナー練習							
第6回	何をしているの？ (2)		2課：練習問題と演習							
第7回	その帽子はいくらですか？ (1)		3課：テキストとパートナー練習							
第8回	その帽子はいくらですか？ (2)		3課：練習問題と演習							
第9回	コーヒーを一杯ください (1)		4課：テキストとパートナー練習							
第10回	コーヒーを一杯ください (2)		4課：練習問題と演習							
第11回	こちらザビーネです (1)		5課：テキストとパートナー練習							
第12回	こちらザビーネです (2)		5課：練習問題と演習							
第13回	何を注文する？ (1)		6課：テキストとパートナー練習							
第14回	何を注文する？ (2)		6課：練習問題と演習							
第15回	まとめ		前期の総まとめ							
授業方法(方法、手段、教材等)	特になし									
評価方法及び評価基準	授業への参加度、及び定期試験を総合的に評価します。 授業への参加度（平常点）50% 定期試験 50% 定期試験では、基礎的な課題の理解度・習得度を試します。									
課題等	それぞれの課で学習したキーセンテンスを覚えてくる。つぎの時間の初めに、覚えてきたキーセンテンスを復習します。									
事前事後学修	新しい課に入る前に、CDでテキストを聞いてくる。各課の終わった後には、CDで「練習問題」を聞いて解答を確認しておく。									
教材教科書参考書	「ドイツ語インフォメーション neu ² 」（朝日出版社）[ISBN978-4-255-25358-9]を教科書として使います。 「やさしい！ドイツ語の学習辞典」（同学社）[ISBN978-4-8102-0005-8]を推薦します。									
留意点	ドイツ語Aと共通教科書を使い、連携して理解を深めます。新しいことに挑戦するつもりで楽しんで積極的に参加してください。									

科目名	日本語表現法		科目ナンバリング	N-LA HL 0-17. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N13001		30時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	志喜屋カローリーナ			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>適切な日本語について考え、練習し、使いこなせるようにすることを目指す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師を目指すものとして、相手に配慮したコミュニケーションの取り方を身に付ける。(看護的側面) ・文献調査や資料の読みとりによって正しい情報を受け取るスキルを身に付ける。(学術的側面) ・社会の中の様々な場面で効力を持つような、正確な日本語表現ができるようになる。(社会的側面) 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	正しい日本語を使う		発表・報告等の改まった場面や患者さんとの会話での話し言葉を中心に、書き言葉も含めて、正しい日本語について考える。							
第2回	敬語を使う		失礼な印象を与えないための敬語の使い方やジェスチャーなど、場面ごとの表現方法を学ぶ。							
第3回	メモをとる		役にたつメモの取り方、過不足なく情報を伝える方法を学ぶ。							
第4回	説明する・発表する		相手が知りたいこと、知識量、状況を判断し、相手がわかる説明をするためのコツを身につける。							
第5回	電話をする		とっさの切り返しや要領を得た話し方について学ぶ。							
第6回	メールを書く		パソコンでメールを送る際の注意点について学ぶ。							
第7回	手紙を書く		様々なツールが存在する世の中で、手紙を書くことのメリットを把握し、適切な運用方法を学ぶ。							
第8回	レポートを書く(1)		感想文との違いを明らかにし、レポートの決められた構成を学ぶ。							
第9回	レポートを書く(2)		報告書や看護記録、看護日誌など、人に読ませる文章の表現について考える。							
第10回	挨拶・自己紹介		安心感や信頼感を与える行為や表現について考える。							
第11回	話すスキルと聴くスキル		医者・患者・事務・福祉関係者などの人々とのコミュニケーションを想定し、気持ちを溜め込まないスキルの重要性について考える。							
第12回	上手に断る		相手の迷惑になりそうなことを想定し、傷つけないよう上手に断る。							
第13回	感情をコントロールするスキル		感情の動きに気づくスキルとコントロールするスキルを学ぶ。							
第14回	問題を解決するスキル		対人葛藤を避けることができない状況を把握し、対処せずにいた場合のリスクを捉え、問題解決の糸口を探すスキルを身につける。							
第15回	復習		これまでに学習した内容について、特に習熟度が低かった内容について復習する。							
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	まとめアクティビティ	グループワーク	資料記入	授業中のノート取り						
評価方法及び評価基準	出席30%+課題提出70%									
課題等	教科書付属トレーニングシートの全項目を記入し、提出する。課題の範囲は授業内で提示する。(第2回~第15回)									
事前事後学修	課題を提出するためには授業内容をよく理解しておく必要があるため、予習・復習は適宜行う。									
教材教科書参考書	野呂幾久子・渡辺弥生・味木由佳『看護系学生のための日本語表現トレーニング』三省堂 ISBN 978-4-385-36328-8									
留意点	授業中に教科書を使用しますので、購入しておいてください。よろしくお願いいたします。									

科目名	統計学の基礎		科目ナンバリング	N-LA HN 0-18. H N		単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N11013			15時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	三浦 雅史 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>色々な統計手法の考えかたや実際の計算方法を習得して看護活動に生かせるように統計学の基礎を学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・尺度について理解することができる。 ・母集団と標本について理解することができる。 ・代表値を計算することができる。 ・検定の手順と方法について実践することができる。 ・看護学関係論文の統計手法について理解することができる。 										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	統計学とは			統計学が発展した背景や医学（看護学）との関連について学習する。							
第2回	統計学で扱う用語とデータについて			これまでの数学的な復習と新しい用語について学習する。							
第3回	記述統計と推測統計について			集団的なものの見方について、代表値と母集団について学習する。							
第4回	1変数の記述統計			1変数の代表値について学習する。							
第5回	多変数の記述統計			多変数の代表値について学習する。							
第6回	確率論			推測統計学の基礎となる確率論についての考え方、手法について学習する。							
第7回	離散型確率変数			離散型変数と確率について学習する。							
第8回	連続型確率変数			連続型変数と確率密度について学習する。							
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
第13回											
第14回											
第15回											
授業方法(オンライン授業、グループワーク等)	PBL (問題解決型学習)	グループワーク	ペアワーク	クイズ、小テスト							
評価方法及び評価基準	<p>試験、講義の参加度による加算評価</p> <p>試験 (60%)、講義の参加度・小テスト (40%)</p>										
課題等	課題を課す場合は、講義時に説明する。										
事前事後学修	事前学習として合計12時間以上を目安とする。										
教材教科書参考書	教科書：看護師のための統計学、共立出版 ISBN978-4-320-11093-9 C3041										
留意点	看護の専門科目である「保健統計学」、「疫学」に繋がる科目であり、積極的な学習を期待します。オンライン授業アプリ (Teams) による双方向的な形態を採用しますので、学生からの質問は大いに歓迎します。										

科目名	情報処理		科目ナンバリング	N-BF 0-19. S N	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	N15004		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	三浦 雅史 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 コンピュータシステム、インターネットに関連する基礎知識を習得します。 表計算、統計処理、文書作成等について、操作方法、加工方法を学びます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。 ディプロマポリシーの4、カリキュラムポリシーの4-1に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータシステムについて理解し、ファイルやフォルダの操作ができる。 ・アプリケーションソフトウェアについて操作、理解ができる。 ・インターネットの仕組みについて理解できる。 ・情報セキュリティについて理解できる。 ・データ処理ができる。 ・プレゼンテーションができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	情報処理とは		情報の概念と必要なデータの分別、加工について学びます。							
第2回	コンピュータシステムの基礎および情報の作成と保存の基礎		コンピュータシステムとは何かを学びます。次に情報を階層的に整理することを意識しながら、OSを操作し、情報の作成と保存について学びます。							
第3回	ビットとバイト I		ビットとバイトについて学びます。次にビットと数の関係およびその演算について学びます。ビットによる情報表現について学びます。							
第4回	ネットワークの構成と使い方		ネットワークの特徴と利点、欠点、エチケットを解説した後、WEBの検索方法、電子メールの送受信について学びます。							
第5回	情報セキュリティ		情報セキュリティ上のリスクと対策について学びます。							
第6回	ワードプロセッサ		文書、画像の作成・操作について学びます。(文字の大きさ、装飾、フォント、色について実践します。)ワープロソフトを用い、実際に操作する							
第7回	表計算ソフトウェア I		セル、シート、ブックの扱い方を学びます。表計算ソフトを用い、実際に操作する							
第8回	表計算ソフトウェア II		関数を使ったデータ加工について学びます。表計算ソフトを用い、実際に操作する							
第9回	表計算ソフトウェア III		並べ替えや抽出、統計処理を学びます。表計算ソフトを用い、実際に操作する							
第10回	表計算ソフトウェア IV		可視化について学びます。表計算ソフトを用い、実際に操作する							
第11回	プレゼンテーションソフトウェア I		文字、図形、部品の、配置、画面の切り替えを使ったプレゼンテーションを作成します。プレゼンテーションツール等を用い、短時間で分かりやすく発表する							
第12回	プレゼンテーションソフトウェア II		文字、図形、部品の、配置、画面の切り替えを使ったプレゼンテーションを作成します。プレゼンテーションツール等を用い、短時間で分かりやすく発表する							
第13回	インターネット I		インターネットとは何かについて学びます。LAN、プロトコルについて、それぞれWi-Fiに接続し、実際に操作する							
第14回	インターネット II		インターネットを利用するサービス、特にWebサービスと電子メールサービスについて学びます。URL、CCとBCCそれぞれWi-Fiに接続し、実際に操作する							
第15回	生成AI		生成AIを用いた文書、図などを作成してみる。それぞれWi-Fiに接続し、実際に操作する							
授業方法(わくわく、学び、グループワーク)	PBL (問題解決型学習)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	発表、ポスター作成					
評価方法及び評価基準	各回の演習課題の成果 (レポート) で評価します。 各回の演習課題の成果 (100%)									
課題等	各回の演習課題は、その都度提示し成果を確認します。レポートは、オンライン提出していただきます。									
事前事後学修	事前学修として合計22.5時間を目安に、各回の授業内容欄内の※に記載の用語を調べてください。									
教材教科書参考書	【教科書】中山和弘他『看護情報学』医学書院、2021年、978-4-260-04205-5									
留意点	レポートのファイルをオンライン提出していただくにあたり、ファイル操作、ネットワーク操作の習得が必須です。									

科目名	環境論		科目ナンバリング	N-LA HN 0-19.S N		単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N11010			30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名					授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの に関連し、カリキュラムポリシーの に関連している。										
到達目標											
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回											
第2回											
第3回											
第4回											
第5回											
第6回											
第7回											
第8回											
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
第13回											
第14回											
第15回											
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)											
評価方法及び評価基準											
課題等											
事前事後学修											
教材教科書参考書											
留意点											

科目名	生 物 学		科目ナンバリング	N-LA HN 0-20. S N	単位数 時 間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N11011		30時間				
区分	教養科目	選択	担当名	宇田 宗弘			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概 要 等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>近年の生物学・生命科学は凄まじい勢いで進歩しています。iPS細胞の開発やがん免疫療法などは病気の治療や医療技術の発展に貢献しています。その一方で、生命科学の進歩、特にゲノム編集技術の進歩により、genome-edited babies (ゲノム編集赤ちゃん)の誕生など新たな倫理的問題も生まれています。本講義ではこれらを理解するための基礎的素養を養うこと、および最近の医学や医療・健康に関わる生命科学について学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 人間を中心とした側面から生物学・生命科学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>2. 生物学・生命科学を社会との関わりから理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	自然科学、自然科学のプロセス		自然科学とは、推論の方法、科学的思考について							
第2回	細胞：生命の基本単位		生物（生命）とは、生物は細胞からできている、細胞はなぜ小さいのか							
第3回	メンデル遺伝学		メンデルの実験、ヒトで見られるメンデルの法則							
第4回	遺伝子の変異		遺伝子の変異とはなにか？、遺伝子多型、一塩基多型を調べる							
第5回	DNAの複製、転写、翻訳と変異		DNAの構造と複製、遺伝子の転写から翻訳のしくみ、変異の種類							
第6回	エピゲノム		エピゲノムとは、エピゲノムと転写調節、エピゲノム情報は遺伝する？							
第7回	感染と免疫		人類と感染症の戦い、ワクチンの開発、免疫応答のしくみ							
第8回	脳はどこまでわかったか		ヒトの脳の構造、神経細胞、記憶と学習の種類、記憶と長期増強							
第9回	身体運動の生命科学1		脳の構造と機能に対する身体運動（身体活動）の影響							
第10回	がん・細胞内シグナル伝達		細胞増殖と細胞死、がん遺伝子とがん抑制遺伝子、細胞内シグナル伝達、がんの診断と病理および治療							
第11回	食と健康1		食べるとは、消化と吸収の仕組み、食と健康をめぐる最近の話題							
第12回	食と健康2		肥満、エネルギー摂取と消費のバランス							
第13回	身体運動の生命科学2		身体運動（身体活動）と生活習慣病、2型糖尿病（または高血糖）への身体運動の効果とその分子メカニズム							
第14回	老化		老化とはどのような状態か、老化のメカニズム、老化の予防は可能か？							
第15回	生命科学技術と生命倫理		ゲノム編集、人口妊娠中絶							
授業方法 (ゼミ、小テスト、授業中のノート取り)	健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023では座位行動を減らすことが推奨されているため、30分に一度スクワット（10回）を行います。									
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者につき、レポート（100%）により評価する。レポートでは授業で扱った内容についての理解度を問う問題を出題して、参考文献を用いて事実を記述しているかどうか、また事実をもとにして自らの意見を記述しているかどうか、さらに文章の論理性について評価します。60%（60点）以上を合格とします。									
課題 等	課題等については授業で説明します。									
事前 事後 学修	各回の授業に該当する教科書の部分を読み、わからない単語や専門用語があった場合は調べて、教科書の内容が理解できるように予習（1.5時間以上）と復習（1.5時間以上）を行ってください。また教科書に掲載されていない内容については図書館やインターネット（各省庁の統計データや学術雑誌など）で、その情報を調べてください。									
教材 教科書 参考書	教科書：現代生命科学(第3版)、東京大学生命科学教科書編集委員会、羊土社 ISBN 9784758121033（必ず購入してください。） 参考書は授業で紹介します。									
留意 点	Microsoft Teamsを使用しますので、オンライン授業の準備をしておいてください。授業ではSlidoアプリを用い、匿名でのライブアンケートや質疑応答、確認テストを行うことがあります。成績評価はレポートで行うため、オンデマンド授業はありません。									

科目名	化 学		科目ナンバリング	N-LA HN 0-21. S N	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N11012		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	長 南 幸 安				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	〔授業の主旨〕									
	人間の生命を理解する能力を身に付けるため、例えばアミノ酸やタンパク質、糖類などの構造や機能を化学的に理解できるように、原子と分子、分子が持っている基本的な概念を学習し、化学の基礎的な法則や原理を習得します。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-1に関連している。									
到達目標	生命科学の現象や仕組みを化学的考え方や方法によって理解できるようになるために、無機化学・物理化学・有機化学の基本を習得する。到達目標は、生命現象を化学的な視点から十分に理解でき説明できるような、基本的な化学の素養を獲得すること。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	ガイダンス		ガイダンスとして授業の進め方と評価の説明。							
第2回	原子のすがた①		体を作る物質・原子の構造							
第3回	原子のすがた②		電子配置・電子配置の規則・原子の安定性と価電子							
第4回	「もの」の量の表し方		物質量の表し方あれこれ							
第5回	溶液中にどれだけ物質が存在するか		濃度の種類と定義						放射線の演習・実験	
第6回	「もの」の成り立ち①		原子の結合							
第7回	「もの」の成り立ち②		分子の結合・化学反応							
第8回	有機化学①		有機化合物の分類法と表し方							
第9回	有機化学②		生体高分子の構造・消化と酵素							
第10回	水の化学①		からだのなかの液体							
第11回	水の化学②		イオンと電解質							
第12回	からだの中の現象①		浸透現象							
第13回	からだの中の現象②		酸と塩基							
第14回	からだの中の化学反応		化学反応と酵素・代謝・脂質の消化とミセル							
第15回	まとめ		今までの総まとめ							
授業方法 (オプショナル・アクティブラーニング等)	授業中のノート取り		実習、フィールドワーク							
評価方法及び評価基準	末試験(100%)を評価の基礎点数とし、授業への参加態度などを点数として加減(±20%まで)し、総合的に判断し評価します。									
課題等	期末試験の採点後の答えは、希望者に開示します。									
事前事後学修	学習した内容の復習(問題演習など):1日あたり15分以上 次回の準備学習時間の目安:1日あたり15分以上。									
教材教科書参考書	教科書:「看護系で役立つ 化学の基礎」有本淳一・西沢いづみ 共著 化学同人 ISBN: 978-4-7598-1543-6									
留意点	毎回の出席を原則とします。 高校で「化学」未履修向けのテキストを使用しますので、未履修者や化学が苦手な学生の受講も可能です。 連絡先(e-mail): cho@hirosaki-u.ac.jp オフィスアワー:月~金 8:00~8:30(弘前大学教育学部4-29号室)									

科目名	医療概論		科目ナンバリング	N-LA C0 0-22. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N11014		15時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	長友 克広、丹羽康貴				授業 形態	講義	複数
授業の概要等	〔授業の主旨〕									
	現代医療の社会的背景や制度を理解し、看護師として持つべき倫理観を学ぶ。現代日本における重要疾病のトピックを学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、3に関連し、カリキュラムポリシーの1-1、3-1に関連している。									
到達目標	看護と医療の関わりを俯瞰し、現代社会の医療を支える上で医療人に必須と考えられる心構えの基礎を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	病の歴史		疾病と治療方法の変遷						長友克広 4/9	
第2回	医療を支えるしくみ		社会保障、医療保険						長友克広 4/16	
第3回	超高齢化社会		日本の人口変化、死亡要因の変化						長友克広 4/23	
第4回	睡眠について1		睡眠不足の影響						丹羽康貴 4/30	
第5回	睡眠について2		睡眠研究の現在						丹羽康貴 5/7	
第6回	看護師と医療の関わり		チーム医療						長友克広 5/14	
第7回	看護師と倫理		個人情報保護をとりまく事例紹介						長友克広 5/21	
第8回	医療事故と安全対策		ヒューマンエラーの要因、ヒヤリハット事例の紹介						長友克広 5/28	
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法 (オンデマンド、アクティブラーニング等)										
評価方法 及び 評価基準	筆記試験 (100%)									
課題等	特になし									
事前事後学修	特になし									
教材 教科書 参考書	プリント配布									
留意点	参考資料：①系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[1] 医療概論 医学書院、②新看護学4 保健医療福祉のしくみ 看護と法律 医学書院、③図説 国民衛生の動向2024/2025 厚生労働統計協会、 講義中に提示されたデータベースや資料を理解すること									

科目名	スポーツ科学概論		科目ナンバリング	N-LA CO 0-24.S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N14001		15時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	棟 方 達 也			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 スポーツは遊びである。しかしスポーツは、現代社会に広く浸透し、文化的生活に多大な影響を与える存在となっているだけでなく、物質的にも精神的にも世界を動かす大きな要因となっている。特にスポーツ界の象徴であり縮図とも言えるオリンピックを中心にスポーツを多角的に概観し、さらに各論を加えてスポーツ像を再構築する。身体のメカニズム的な理系分野は、他の専門科目等で扱うと思われるので、この授業では主として文系のスポーツ科学を扱う。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1)に関連する。カリキュラムポリシーの1-1)に関連する。</p>									
	到達目標	オリンピックについて、構造、歴史、ビジネスの観点からアプローチし、知識と理解を深める。また、各論として、ドーピング問題やスポーツが国際情勢及び自然とどのような関わりを持っているのかを理解する。								
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備 考		
第1回	ガイダンス及び導入		単位、評価、科目の位置付け等の説明。スポーツを学問の対象にするとはどういうことか。人間にとての身体運動とは？					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第2回	オリンピックの歴史		近代におけるオリンピックの復興から世界展開への流れ及び日本の関わりを知る。					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第3回	オリンピックの構造		そもそもオリンピックというスポーツイベントはどのようなものなのかを『オリンピック憲章』に基づいて解説する。(JOCのホームページで『オリンピック憲章』を探してみよう。)					ppt. スライドとプリントを使って講義 ICTの活用		
第4回	オリンピックビジネス		特にプロ解禁以降、世界を動かすビジネスとして拡大し続けるオリンピックを商業主義の観点からふまえて分析する。					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第5回	ドーピング		ドーピングの実態とアンチ・ドーピングへの世界的な取り組みを理解する。(JADAやJOC等のホームページ参照)					ppt. スライドとプリントを使って講義 ICTの活用		
第6回	スポーツと国際情勢		スポーツ界から見る国際情勢を「伝播」、「宗教」、「女性」といった観点から捉える。					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第7回	スポーツと自然		自然を対象とする身体運動の概念と科学の進歩によるアウトドアスポーツ（登山を例に）の変容を理解する					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第8回	総括と試験		全体の補足と総括、筆記試験（100点満点）							
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(オンライン・対面・ブレンド・フリップ・ラーニング等)	授業中のノート取り									
評価方法及び評価基準	試験：100点（講義で扱ったスポーツに関する最低限の知識と理解度を問う設問集） ※配布したプリント（ppt. スライド）に加えて、講義内容をしっかりノートしていることを前提に問題を出す。									
課題等	オリンピックの他、近年のスポーツ関連の情報（ニュース等）に日頃から関心を向ける。									
事前事後学修	JOC（日本オリンピック委員会）、JADA（日本アンチ・ドーピング機構）等のホームページの情報を講義内容の理解（特に復習）に活用することが有効である。[ICTの活用]									
教材教科書参考書	ppt. スライド使用、プリント配布									
留意点	出席は取らないが、授業でしっかりノートを取らないと、後でプリントだけ見ても理解できない。									

科目名	スポーツ科学実技A (バスケットボールA)		科目コード	N-LA CO 0-25.S N		単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	N14002			30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	棟方 達也 (実務経験：公認指導資格を有する教員)				授業 形態	実技	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 5人制バスケットボールの最も基本的な個人の動きからゲームにおけるチーム（5人）の攻防の展開までを論理的に理解しつつ実戦を学ぶ。但し、実技の授業は、通常、予習や復習ができない。また週に一度の授業で技術はほとんど上手くはならない。しかし、結果に関わらず「どうすれば」あるいは「なぜそうするのか」を理解し、実際にやってみることに意義がある。尚、重要な技能要素の一つであるドリブルの習得には、個別に相当量の練習時間を要するため、授業時間内では紹介のみとする。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。										
到達目標	バスケットボールという球技を合理的に理解する。そのために、動きや体の使い方の意味を理解し、実戦においては、チームの一人一人に必ず役割とやるべきことがあることをふまえ、何をすべきか判断し積極的に動くよう努力する。技術的には、オフェンスにおいては最低限のパスワーク、ステップ、ラン及び連携を体得する。また、マンツーマンディフェンスにおける基本的な構えと位置どりや体の使い方を理解し実践する。										
授 業 計 画											
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	ガイダンス			・受講者数、経験の有無等の確認 ・体育館での実技授業の受講に関わる留意点の伝達						場所：体育館 実技の準備不要	
第2回	講義 1			1. ルーブリックの解説 2. 名称、歴史、コートの規格等 3. 最終的に5対5のゲームをする際に、最低限知っておくべきルールの解説。						場所：教室 ルーブリック配布	
第3回	講義 2			基礎知識の確認と筆記テスト							
第4回	基本の動き 1			ストップ動作を軸とするウォーク、ラン、ステップの確認とそれらに関連する重心移動 フットワーク各種、対人の動き							
第5回	基本の動き 2			フットワーク各種、対人の動き							
第6回	基本の技術 1			ボールハンドリング、ドリブル、ピボット、キャッチ、パス、ミート 等							
第7回	基本の技術 2			対面パス（各種のパス）、移動を伴うパス、パス&ラン（三角パス、四角パス）							
第8回	オフェンス 1			パス&ラン、シュートの基本（セット、ランニング、ドリブル）、2メン							
第9回	オフェンス 2			シュートの基本、2メン、3メン（3線の理解）							
第10回	オフェンス 3			3メン、アウトナンバー（2対1、3対2）、得点の確率を上げるための合理的な展開							
第11回	ディフェンス 1			マンツーマンディフェンスの基本（位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等）1対1							
第12回	ディフェンス 2			マンツーマンディフェンスの基本（位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等）2対2、							
第13回	ディフェンス 3			マンツーマンディフェンスの基本（位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等）3対3、アウトナンバーディフェンス							
第14回	攻防の展開 1			5対5（ゲーム形式）							
第15回	攻防の展開 2 及び実技テスト			5対5（ゲーム形式）、実技テスト							
授業方法 (学びの プロセス 等)	グループワーク	ペアワーク	理解度チェック								
評価 方法及び 評価 基準	・評価点数配分の内訳、実技の評価基準の詳細等をルーブリックにて提示、解説 ・授業への参加状況：50点 実技テスト：30点 筆記テスト：20点										
課題 等	特に無し										
事前事後 学修	筆記テストへの対応として、最初に配布するプリントの内容と授業内で確認するルールをよく理解しておくこと。実技なので個別の予習、復習は困難。										
教材 教科書 参考書	使用しない										
留意 点	男女問わず。部活動その他で専門的な指導を受けたことのない人を対象とする。3学部合同で実施 定員：24名 受講希望者が24名を超えた場合は、抽選とする。また、受講者が10名に満たない場合は、内容を大幅に変更、もしくは開講しない場合もある。										

科目名	スポーツ科学実技B (Walking)		科目ナンバリング	N-LA CO 0-26.S N	単位数 時間	1単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期変則
			科目コード	N14003						
区分	教養科目	選択	担当者名	棟方達也 (実務経験のある教員)			授業 形態	実技	単独	
授業の概要等	<p>[授業の主旨] 「歩行」という運動についてアウトドアスポーツの側面から追求する。具体的には、平地での長距離ウォーク(イベント参加)と起伏のある場所でのウォーク(登山、トレッキング)を実践する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマ・ポリシーの1に関連し、カリキュラム・ポリシーの1-1に関連する</p>									
到達目標	日常のエクササイズというよりも、アウトドア系レクリエーションとして「歩く」ことを体感し、楽しむ。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス (4/14)		受講者数確認 実施方法や日程等について						場所：体育館	
第2回	タウンウォーク 1 (4/21)		大学を起点とし、約5kmのコースを歩く(歩数及び歩行時間計測)						Aコース (フィールドワーク)	
第3回	タウンウォーク 2 (4/28)		大学を起点とし、約5kmのコースを歩く(歩数及び歩行時間計測)						Bコース (フィールドワーク)	
第4回	タウンウォーク 3 (5/12)		大学を起点とし、約5kmのコースを歩く(歩数及び歩行時間計測)						Cコース (フィールドワーク)	
第5回	タウンウォーク 4 (5/19)		大学を起点とし、約5kmのコースを歩く(歩数及び歩行時間計測)						Dコース (フィールドワーク)	
第6回			・内容：『第26回津軽路ロマン国際ツアーデーマーチ』参加						陸奥新報社HP参照	
第7回			・日程：2025年6月14日(土)～15日(日)予定						(フィールドワーク)	
第8回	ウォーキングイベント参加(授業5回分)		[課題] 2日間で合計25km以上になるように各自でコースを選択し参加する。							
第9回			※尚、イベント中止もしくは学部の事情等により参加できない場合は、代替の内容のウォーキング課題を別日程で実施する。						※後日、完歩証とレポートを提出	
第10回			(タウンウォークの時間以外にもイベントまでに長距離を歩くトレーニングを積んでおくことが望ましい。)							
第11回			・内容：日帰り登山						(フィールドワーク)	
第12回			・日程：夏休み中							
第13回	登山(授業5回分)		・場所：青森県内(八甲田山系または岩木山)							
第14回										
第15回									※後日、レポートを提出	
授業方法(付 属資料参照 等)	PBL(問題解決型学習)	実習、フィールドワーク	グループワーク	資料記入						
評価 方法及び 評価 基準	ガイダンス及び実技の参加・活動状況：60点 レポート：40点(登山については、コースタイム、コース状況、装備、飲食、体調などにつて報告する) ウォーキング及び登山の全てに参加すること。									
課題 等	長距離、長時間歩行									
事前事 後学修	[事前] ウォーキングイベントに向けて、日頃から長距離を歩き慣れておくことが望まれる。									
教材 教科書 参考書	必要に応じて、提示、配布する。									
留意 点	イベント参加料(¥1,000※2024年)、他実費各自負担 定員：8名(受講希望者が定員を超えた場合は抽選)									

科目名	スポーツ科学実技C (シーカヤック)		科目コード	N-LA CO 0-27.S N		単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	N14004			30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	棟方 達也 尾形 信(協力プロガイド) (実務経験のある教員)				授業 形態	実技	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>シーカヤックとは、海で漕ぐカヤックのことである。シーカヤックツアーをメインとする海浜野外活動（SAP体験あり）を体験学習する。2泊3日のキャンプ形式で実施する。〔フィールドワーク、グループワーク等のアクティブラーニング要素を含む〕</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>										
到達目標	<p>・シーカヤックの基本操作の習得 ・自然との望ましいつきあい方の体得 ・野外での衣食住と共同生活への順応</p>										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	1 ガイダンスと事前学習（7月）		受講心得、交通手段、費用、装備等について 基本作業の確認						Teams連絡または掲示に注意		
第2回	2 実習		実習地：北海道泊村釜海岸（予定）						<p>・2人乗り艇</p> <p>・個別活動</p>		
第3回	〔フィールドワーク、グループワーク、PBL〕		日 程：8月お盆以降（予定）（2泊3日 移動日を除く）								
第4回			内 容 ・ 陸上指導 ・ 海上実践練習								
第5回			・ ショートツアー								
第6回			・ キャンプサイトの設営と撤収								
第7回			・ たき木調達とたき火の管理								
第8回			・ 食料、飲料水の管理と野外炊事								
第9回			・ 各種海浜野外活動（各自）								
第10回			・ 報告書作成								
第11回											
第12回											
第13回											
第14回											
第15回											
授業方法(フィールドワーク、グループワーク、PBL等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	PBL（問題解決型学習）	ペアワーク	資料記入						
評価方法及び評価基準	<p>ガイダンス、実習の参加、活動状況と活動報告書（5段階評価）を総合して評価する：100点</p> <p>※ガイダンスを無断欠席した場合は、実習に参加できない。</p>										
課題等	<p>団体行動に適応し、安全に配慮しつつも何事にも積極的に取り組む。虫嫌いや食べ物の好き嫌いを克服する。</p>										
事前事後学修	<p>〔事前〕 現地で実施したい個別活動の計画と準備</p>										
教材教科書参考書	<p>使用しない</p>										
留意点	<p>定員：3～8名 登録前に必ず、担当教員と面談（チャットにてアポ可）し、適性の確認を受けてから登録すること。履修登録者に対し、受講費内金として大学より¥20,000が徴収される。納入締切日(6月末頃)までの入金確認をもって履修確定とし、納入後、キャンセルした場合は、この内金は返金されないので、登録には注意すること。受講費総額（内金含む）の目安¥35,000前後+北海道往復旅費 3学部合同実施 ※泳げなくても大丈夫!</p>										

科目名	スポーツ科学実技D (スクーバダイビング)		科目ナンバリング	N-LA CO 0-28. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期集中
			科目コード	N14005		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	棟方 達也 土田 浩人 (協力インストラクター) (実務経験のある教員)			授業 形態	実技	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>NAUIオープンウォーターダイバー(以下OWD)認定コースを受講することで、スポーツスクーバダイビング技能の習得を目指すとともに海浜(海洋)野外活動を学ぶ。(2泊3日合宿型) OWDに認定されると、「Certification Card(通称:Cカード)」という世界共通の認定証が取得でき、さらにスキルアップして各種ダイバー資格の取得を目指す第一歩となる。実習期間中に認定に至らない場合は、その一歩手前のパスポートダイバーに認定することもできる。 ※既にパスポートダイバー認定を受けている人、あるいはOWD認定を受けている人等で上位コース(アドバンスダイバー等)の受講を希望する人にも対応する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	NAUI OWD認定									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
1.	ガイダンス(7月)			・受講心得・交通手段・費用・装備・事前提出書類・eラーニング等について						
2.	NAUI OWD認定講習プログラム			<ul style="list-style-type: none"> ・学科講習:eラーニング+現地補講 ・実習地:北海道美国町(積丹半島) ・日 程:夏休み中 2泊3日+前後移動日 ・内 容 [1日目]午前:実技1 午後:実技2+学科補講 [2日目]午前:実技3 午後:実技4 [3日目]午前:実技5 午後:実技6 ▷「ログブック」記入による講習の振り返り 					<p>[反転学習(eラーニング)]は実習前に修了</p> <p>※DIVE-BIDS(美国ダイビングサービス)の正規講習を受講する。</p> <p>ペアワーク(パディシステム)</p> <p>フィールドワーク</p> <p>リフレクション(Log Book)</p>	
授業方法(方法・手段・eラーニング等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	ペアワーク	理解度チェック	リフレクションシート					
評価方法及び評価基準	OWD認定:100点 パスポートダイバー認定またはそれと同等のレベルに達している場合:80点 ※それ以外の場合は、受講状況と到達度により判断する。									
課題等	合宿による集中授業なので、集団生活への対応、特に他の者との協調性が求められる。また、スクーバダイビングに対する身体的適応性の事前確認									
事前事後学修	学科講習:実習前のeラーニングによる反転学習 [必須課題] 足の届かない深さで泳げる(パニックにならない)ようになっていること。									
教材教科書参考書	事前に所定の教材及び各種確認書類を配布									
留意点	持病や体質等により受講できない場合があるので、登録前に必ず、担当教員と面談し 適性の確認 を受けること。(Teamsのチャットによるアポイント可) 履修登録者に対し、受講費内金として大学より¥20,000が徴収される。納入締切日(6月末頃)までの入金確認をもって履修確定とし、納入後にキャンセルした場合、この内金は返金されないで、登録には注意すること。受講費総額(内金含む)目安¥54,000程度(講習料、施設使用料、食費など)+北海道往復旅費 3学部合同実施 [視力について] 球面度数-2.0(目安視力値0.2)以下の人は、度付きレンズマスクの購入が別途必要。(購入価格¥24,000+税程度)※コンタクトレンズの使用不可									

科目名	スポーツ科学実技E (スノースポーツ)		科目コード	N-LA CO 0-29.S N		単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	N14006			30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	棟方達也 (実務経験のある教員)			授業 形態	実技	単独		
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>種目：スキー（初級者限定※未経験者不可） グループ分けにより自身のレベルに合った学習でスキルアップを目指すとともに、スキーのおもしろさを学ぶ。</p> <p>対象レベル：緩斜面をプルーク姿勢（ハの字）で真っ直ぐ滑って止まれる～プルーク姿勢で緩斜面をターンしながら滑り降りる程度までの者を対象とする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの に関連し、カリキュラムポリシーの に関連している。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で楽しい技術の習得 ・生涯スポーツとしてのスキーの楽しさ、おもしろさの理解 <input type="checkbox"/>										
授 業 計 画											
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考		
第1回	<h1>今年度、開講せず</h1>										
第2回											
第3回											
第4回											
第5回											
第6回											
第7回											
第8回											
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
第13回											
第14回											
第15回											
授業方法（ワークショップ等）											
評価方法及び評価基準											
課題等											
事前事後学修											
教材教科書参考書											
留意点											

科目名	スポーツ科学実技F (バスケットボールB)		科目コード	N-LA CO 0-26. S N		単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期変則
			科目ナンバリング	N14007		時間	30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	棟方 達也 (実務経験：公認指導資格を有する教員)				授業 形態	実技	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>原則として部活動その他でバスケットボールの専門的な指導を受けた経験がある人を対象とする。(経験年数不問)この授業は、1つのスポーツ競技としてのバスケットボールを総合的に理解することを目的とする。そのために、実技はもちろんのこと、ゲーム運営(審判及びテーブルオフィシャル)、スポーツボランティア体験及びハイレベルなゲームの分析も含まれる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>										
到達目標	バスケットボールの総合的な理解と実践										
授 業 計 画											
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考		
第1回	ガイダンス		・バスケット経験の確認 ・体育館での実技授業の受講に関わる留意点の伝達 ・基礎知識の確認と解説〔反転学習〕 ・後半日程と内容の解説						教室にて実施 実技の準備は不要		
第2回	実技：基本の確認		レベルチェックのための各要素(パス、ラン、ドリブル、シュートなど)の確認〔反転学習〕								
第3回	オフェンス1		パス、ラン、シュート、1対1～3対3、スクリーンプレー、ノードリブルオフェンス、アウトナンバーオフェンス その他								
第4回	オフェンス2										
第5回	ディフェンス1		マンツーマンディフェンスの基本、フルコートディフェンス、アウトナンバーディフェンス その他								
第6回	ディフェンス2										
第7回	攻防の展開		5対5(ゲーム形式)								
第8回	テーブルオフィシャル及びスタッツ		正しいT0の運営とスタッツ入力の理解						教室にて実施		
第9回	審判の基礎		JBA公認審判(E級)講習を受講する〔ICT活用：eラーニング〕 (要受講関係費用¥1,400 ※2024年度参考) ※既に取得済みの者は免除						12月までに修了すること		
第10回											
第11回	スポーツボランティア体験		Bリーグ・青森ワッツのホームゲームボランティアを体験し、レポートする。〔フィールドワーク、グループワーク〕						10月～12月開催のゲームを対象とする		
第12回											
第13回											
第14回	ゲーム分析		国内、国外のハイレベルな試合(プロリーグ等)を観戦(映像可)しレポートする。						観戦方法によっては、ICTの活用(WEB配信映像)		
第15回											
授業方法(ゼミ、フィールドワーク、グループワーク、資料記入、理解度チェック、リフレクションシート)	実習、フィールドワーク	グループワーク	資料記入	理解度チェック	リフレクションシート						
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加状況：30点 ・実技レベル：20点(5段階評価) ・eラーニング修了：20点 ・ボランティア体験報告：20点 ・ゲーム分析レポート：10点 										
課題等	eラーニング及びボランティアは必須課題とし、修了が確認できない場合は、単位不可とする。										
事前事後学修	eラーニングやゲーム分析は、開講以前(前期中)でも実行可能なので、希望者は事前に申し出ること。										
教材教科書参考書	必要に応じて、提示、配布する。										
留意点	男女問わず。同年度においてバスケットボール1(A)と両方の受講は認めない。3学部合同で実施 定員：18名 受講希望者が定員を超えた場合は、抽選とする。また、受講者が10名に満たない場合は、内容を大幅に変更、もしくは開講しない場合もある。										

科目名	海外研修 (事前準備/アメリカ)		科目ナンバリング	N-LA G0 0-31.S N	単位数 時間	2単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期
			科目コード	N15003		60時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	エドワード・フォーサイス			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>This course will prepare students for study abroad in English-speaking countries with programs sponsored by Hirosaki Gakuin University study abroad program.</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの6・8に関連し、カリキュラムポリシーの6-2・8に関連している。</p>									
到達目標	<p>This course is a study abroad preparation course that will prepare students for their experience abroad in English-speaking countries. Students will learn how to interact with others in English and deal with cultural differences during study abroad while understanding the differences between Western and Japanese cultures.</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	Course Orientation and Program Introduction	Instructor explains course objectives and university study abroad programs.						第16回	<p>The content for the second semester of this course is based on the curriculum of the study abroad program attended. Students must complete all parts of their program to receive credit.</p>	
第2回	On the Plane	Students will learn about what to expect when traveling abroad experience & practice in pairs.	Create dialogue					第17回		
第3回	Airport Arrival Procedures	Students will learn about arriving at the airport & practice going through customs and immigration in pairs.	Fill out forms					第18回		
第4回	Meeting the Host Family	Students will learn about meeting their homestay family and practicing greetings in pairs.	Create dialogue					第19回		
第5回	Living with Host Families	Students will consider how and live with the host families and discuss gifts for host families as a class.	Group Discussion					第20回		
第6回	Sharing Japanese Culture	Students will consider how and what to share about Japanese culture and discuss gifts for host families.	Explain a gift					第21回		
第7回	Orientation	Students will learn what to expect when they begin their study abroad.	Portfolio Page					第22回		
第8回	Making friends	Students will discuss how to make friends at study abroad programs in pairs and groups.	Portfolio Page					第23回		
第9回	Seeking Medical Care	Students will learn how to get treatment for medical issues while studying abroad.	Portfolio Page					第24回		
第10回	Seeking Medical Care	Students will continue to learn about treatment for medical issues while studying abroad.	Portfolio Page					第25回		
第11回	Shopping	Students will discuss foreign money and shopping in foreign stores; practicing in groups.	Portfolio Page					第26回		
第12回	Airport Departure Procedures	Students will learn what to expect when departing their study abroad and practice in groups.	Portfolio Page					第27回		
第13回	Giving Presentations	Students will discuss how to give presentations in study abroad classes in groups.	Portfolio Page					第28回		
第14回	Cultural Portfolio Presentation	Students will present their cultural portfolios.	Presentation					第29回		
第15回	Review and Feedback	Students will review the lessons learned about how to prepare for study abroad.						第30回		
授業方法(オンライン、ハイブリッド、オンデマンド等)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	シグソー・リーディング	資料記入					
	Some classes may be held on-demand using TEAMS.									
評価方法及び評価基準	Classroom participation: 10%; Cultural book reading assignment: 15%; Cultural Presentation (graded on content & English language accuracy using a rubric): 25%; Japanese culture version of the Cultural Portfolio (graded on content & English language accuracy using a rubric): 50%.									
課題等	Missed assignments should be submitted before the following class; the student is responsible for submitting missed assignments. Students will be asked to use their smartphones for class assignments every week.									
事前事後学修	Pre-class reading materials and assignments should be completed and understood before coming to class. Expected preparation time: 90 mins. per day.									
教材教科書参考書	<i>Across Borders: Preparing for Study Abroad</i> . Tsuji et al. (2024), Sanshusha [ISBN: 978-4-384-33528-6]. The professor will also provide handouts and materials. Students must have a smartphone or computer for activities.									
留意点	Students must attend scheduled classes and must submit drafts and work according to the professor's requirements. Students should inform the professor PRIOR to absences whenever possible.									